

- 1 派遣期日 令和5年 10月27日(金)～10月27日(金)
 2 派遣先 学校名(会場名) 京都市立凌風小中学校
 所在地 京都府京都市東九条下殿田町56
<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=105453>

3 研修内容

(1) 全体会(研究報告)

全体会に参加し、研究開発部の先生方から研究報告を受けた。まず凌風小中学校の3つの重点指導方針について説明された。

① 学びの作法の習得

授業規律の確立、学び方の獲得、学習の習慣化により自らを高める態度の育成を図っている。義務教育学校の特性を活かし、9年間を見据えた指導方針と具体的な取り組みのもと教育活動が進められていた。下の画像は凌風学園の学びの作法である。

凌風学園の学びの作法

ステージ 学年	第1ステージ			第2ステージ			第3ステージ	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年
学習規律	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に向かう態度 ・座り方、姿勢、礼儀 ・学習準備(教科書、ノート、持ち物など) ・提出物 ○「聞く」「話す」態度の育成(1・2年) →「話し合い」の仕方を身に付ける(3・4年) 			<ul style="list-style-type: none"> ○学習に向かう態度 ・学習準備(時間を見通した準備) ・提出物(期限を見据えて取り組む) ○「話し合い活動」の充実 ○あいさつ、言葉遣い、ベル着 ○5年努力→6年達成→7年定着 			<ul style="list-style-type: none"> ○学習に向かう態度 ・学習準備(時間を見通した準備) ・提出物(期限を見据えて取り組む) ○「話し合い活動」の充実 	
学び方	<ul style="list-style-type: none"> ○目標を立てて、実行し、振り返る ○各教科・領域の学習における言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成 ・話し合い、討論、プレゼンテーション、ポスターセッション等、工夫した発表の場の設定 ・数式やグラフ、音符など、様々な形で表現する ○キャリア教育の視点を生かした授業展開 			<ul style="list-style-type: none"> ○目標を立てて、実行し、振り返る ○各教科・領域の学習における言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成 ・話し合い、討論、プレゼンテーション、ポスターセッション等、工夫した発表の場の設定 ・数式やグラフ、音符など、様々な形で表現する ○キャリア教育の視点を生かした授業展開 			<ul style="list-style-type: none"> ○自己の将来や進路への目標を立てて、その実現に向けて努力・実行する ○各教科・領域の学習における言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成 ・話し合い、討論、プレゼンテーション、ポスターセッション等、工夫した発表の場の設定 ・数式やグラフ、音符など、様々な形で表現する ○キャリア教育の視点を生かした授業展開 	
学習習慣・ 自学自習	<ul style="list-style-type: none"> ○貼り強く課題に取り組む ○家庭学習の習慣化(宿題をやりきる) ・小テスト ・単元テスト ・チャレンジテスト 			<ul style="list-style-type: none"> ○貼り強く課題に取り組む ○家庭学習の習慣化(宿題をやりきる) ○自学自習の態度の育成(目標設定とその実現に向けた努力) ・小テスト ・単元テスト ・チャレンジテスト ・Jプロ・雑プロ 			<ul style="list-style-type: none"> ○貼り強く課題に取り組む ○家庭学習の習慣化(宿題をやりきる) ○自学自習の態度の育成(目標設定とその実現に向けた努力) ・凌風コンパスの活用 ・あゆむくんの活用 ・小テスト ・単元テスト・定期テスト ・チャレンジテスト ・Jプロ・雑プロ ・英語検定 	

② 言語活動の充実

読書活動や文章表現、意見を述べるなどの場面を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図っていた。授業においては、「活用型の授業」を展開し、学園生が主体的に学ぼうとする態度を養うよう取り組んでいた。言語活動の充実についても学年やステージごとに領域ごとの目標や評価について設定し、学園全体での取り組みにつながるよう取り組んでいた。

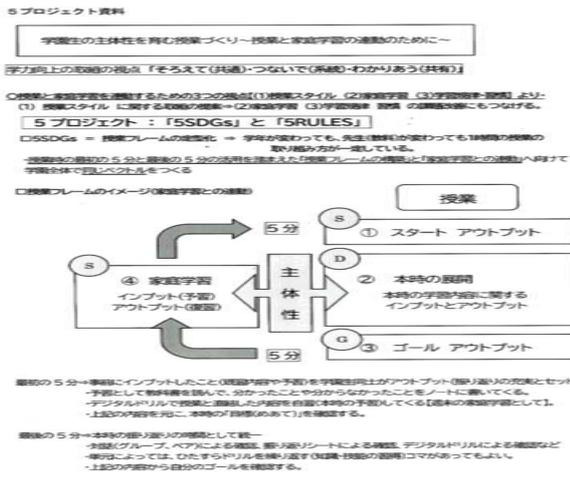
③ キャリア形成支援

卒業までに一定の社会性を身につけ、生涯にわたって学習し続ける基礎の確立を図るため、学園行事や総合的な学習の時間、道徳等と関連付けて取り組みを進めている。

学習習慣の確立を図るため、家庭学習スケジュールノートやタブレット端末を活用した1週間の家庭学習振り返りシートを活用するなど学習の計画をそろった形で実施している。

また、学園での研究の重点的取り組みについても報告があった。授業研究の取り組みにおいては、学習規律、授業スタイル、発表スタイル、家庭学習との連携において、発達段階に応じて教科部内でそろった取り組みを推進している。また、下記に示す画像にある5 SDGs と5 RULES を基に、そろえて(共通)・つないで(系統)・わかりあう(共有)をキーワードに9年間の学びを見通して授業実践を積み重ねている。

学習習慣(自主学習の態度)の確立についてはキャリア形成支援の項でもふれた鳥喰を進めており、小学生段階でも家庭学習ノートの取り組みやノート展の実施、ノートへ学習する際のポイントが記載された掲示物があるなど、学園全体での取り組みが見られた。



「教える作法 5RULES」の授業

① 授業開始(START)の5分	●本時の目標(あて)の明確化 - 本時の目標(あて)の明確化 - 本時の目標(あて)の明確化 - 本時の目標(あて)の明確化	500 - 授業 - 発表 - 発表
② 授業展開の(5)の35分-40分	●本時の展開(あて)の明確化 - 15分間の授業 - 10分間の授業(作業グループ学習)による確認 - 10分間の授業(作業グループ学習)による確認	
③ 授業終了(GOAL)の5分	●本時のゴール(あて)の振り返り(家庭)で自分のゴールを確認 - 振り返りシート - 振り返りシート	
④ 家庭学習(STUDY)の5分	●家庭学習の振り返り(家庭)で自分のゴールを確認 - 予習-授業準備を確認 - 「分かったこと」「分らないこと」「分らないこと」をノートに書く、確認を確認する。 - 確認-授業準備を確認 - 確認-授業準備を確認	

※上記の内容に基づいて、「教える作法 5RULES」を授業に活用する。

①スタート アウトプット	「スタートとゴールの5分」で取り組むアウトプット - 予習-授業準備を確認 - 予習-授業準備を確認 - 予習-授業準備を確認	活用するもの(シート、デジタル)
②ゴール アウトプット	「本時のゴール(あて)の振り返り(家庭)で自分のゴールを確認 - 振り返りシート - 振り返りシート	活用するもの(シート、デジタル)
③家庭学習 インプット アウトプット	「家庭学習の振り返り(家庭)で自分のゴールを確認 - 予習-授業準備を確認 - 予習-授業準備を確認	活用するもの(シート、デジタル)

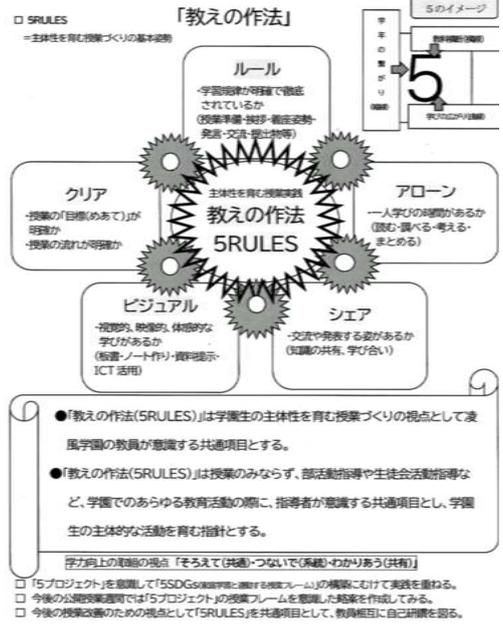
※デジタルドリル活用時の視点「そろえて(共通)つないで(系統)わかりあう(共有)」

(2) 授業参観

公開授業①では小学校段階の学級の授業が公開された。5年生の社会科の授業を主として参観した。これからの工業生産の課題を確かめ、これからの工業生産に大切なことについて自分の考えをもつ活動を行った。

自分の考えをまとめ、この後の授業で中2の生徒へ提案するという活動を設定しており、義務教育学校の特性を活かし、相手意識をもった言語活動を組み立てていた。また、ICT機器の活用においてはロイロノートを活用し、活動の流れの提示などの支援を進めるだけでなく、スライドの作成など成果物の共有や発表にも活用されていた。学園生はスタンド式のホワイトボードに自分の意見やそこから考えを発展させていく様子を素早くまとめた。文章の表現力の高さが感じられ、普段の学習からの積み重ねが垣間見えた。

公開授業②では、中学校2年生段階の地理的分野の授業を主として参観した。近畿地方を題材に、近畿地方をもっとよい街にするためにどの課題が深刻だと思えるかを考える活動を行っていた。まず導入で近畿地方の課題を挙げる際、ロイロノートを活用し、出た意見を4つの視点でグループごとに整理し、可視化していた。同じ視点の生徒同士でグループをつくり、交流してから自分の考えをまとめた。この授業で言語活動を意図的に設定し、学習した内容を根拠に表現する力の高さを感じた。京都市に住む生徒ということもあり、京都市の財政難について挙げる生徒が多かった。



(3) 研究協議

公開授業の参観を終えた後、社会科部会に参加した。凌風学園の教員、京都市の小学校の先生と福岡県から参加された小学校の先生と協議を行った。協議では凌風学園の社会科部会で設定した資質能力の育成に公開授業で行った手立てが有効であったかについて検討した。指導助言いただいた指導主事の先生方からは、小中接続を念頭に置いたカリキュラムの調整などが、義務教育学校の強みを活かすことにつながるとあった。社会科の学習においてキーとなる多面的・多角的という視点についても助言をいただいた。

4 感想

現在勤務校での課題研究に取り組んでいるテーマと関連のある授業や研究について実際に参観したり、報告を受けたりしたことで今後の研修に活かすことができると考える。参観した学校で進めていたICT機器の活用を勤務校でどう進められるか引き続き検討したい。